

園地内ライトトラップを利用した果樹カメムシ防除対策 マニュアル（簡略版）

山口県病害虫防除所
平成 24 年（2012 年）4 月
平成 27 年（2015 年）5 月改訂

果樹カメムシは年や場所によって飛来量や飛来時期が大きく違い、防除の判断が困難な害虫です（図 1）。ほ場の観察で侵入を確認することは困難ですが、ライトトラップを利用することで確実に園地への飛来を把握でき、効果的な防除が可能になります。

果樹カメムシの生活環

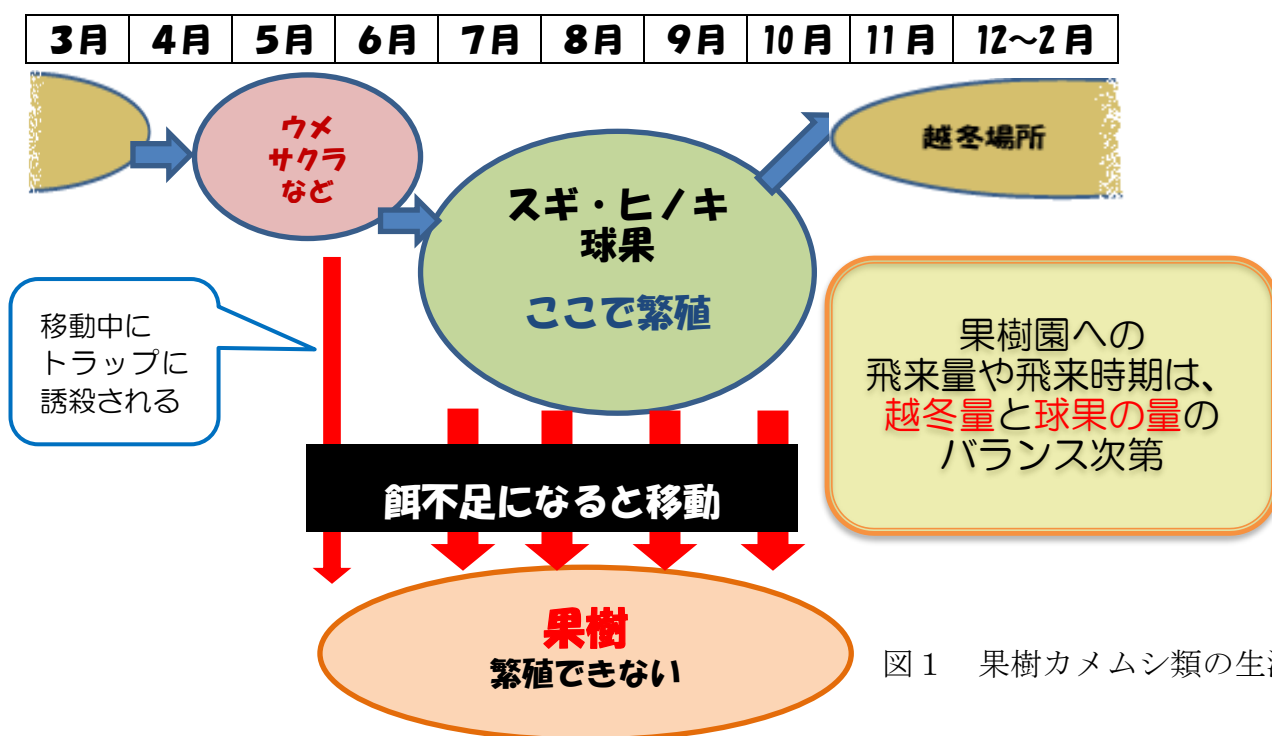


図 1 果樹カメムシ類の生活環

○園地内ライトトラップの設置方法

1 設置方法

(1)使用機材

(株)光バイオ製 光防除器 GRC 型。

光源の 30W 丸形黄色蛍光灯を同形の昼白色
蛍光灯に交換して使用します。

(2)設置場所

- ①100V 電源があり、園地内で毎日確認しやすい場所。
- ②園地内に電源がない場合は、園地に近い電源のある場所。
- ③ 1～2 ha に 1 台程度設置。



写真1 ナシ棚こつり下げたライトトラップ

(3)設置の仕方

- ①樹冠より下に設置。棚につり下げるか、鉢置きなどを使用します。(写真1、図2)
- ②トラップに光センサー付コンセントをつなぎ、夜間自動点灯するようにします。(図3)

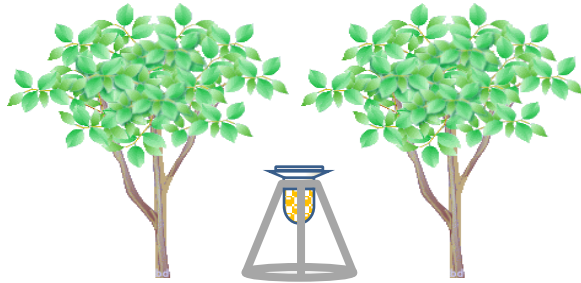


図2 鉢置きを使用して設置

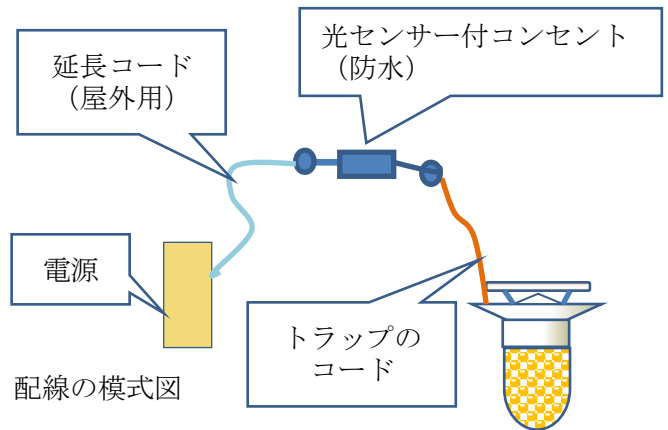


図3 配線の模式図

2 調査方法

ネットをトラップから外してバットや板の上に誘殺された虫を取り出し、果樹カメムシ(写真2)を探して頭数を確認します。



写真2 果樹カメムシ主要3種

(株)光バイオ 光防除器GRC型について

黄色蛍光灯で夜蛾(ヤガ)類を忌避するとともに、光に集まるカメムシなどの虫を吸引ファンで捕殺するものです。本来の使用法では10aあたり6~10台設置します。この光防除器の黄色蛍光灯を昼白色蛍光灯に取り替えてライトトラップとして使用します。

(参考) 価格 本体+光センサー 1台 15,000円程度
電気代 1時間あたり約1円

問い合わせ

株式会社 光バイオ

〒761-8042 香川県高松市御厩町1144番地

ホームページ <http://www.h-bio.net/>

3 ライトトラップの防除判断基準（果樹全般・6月～8月）

無袋栽培

6月から毎日トラップ調査

誘殺数 **5頭以上** ➡ 本格的な飛来開始時期と判断。防除を実施する。

有袋栽培

果実が肥大し袋に接し始めたら毎日ライトトラップ調査

誘殺数 **10頭以上** ➡ 防除を実施する。

防除後 (無袋・有袋)

薬剤の残効が切れる前にライトトラップ調査を再開。

一度、ネット内の虫を捨てて、翌日誘殺数を確認する。

(薬剤の残効期間は下記の表を参照)

誘殺数 **10頭以上** ➡ 防除を実施する。

誘殺数 **10頭未満** ➡ 引き続き毎日トラップを確認する。

○薬剤防除の留意点

1 使用する薬剤

果樹カメムシ類に対して多くの薬剤が高い効果を示します。発生量の少ない年は、ナシ、モモ、リンゴでは、シンクイムシ類など他の害虫との同時防除で十分です。

しかし、発生が多い場合、長期間に渡って飛来が続くので、残効性が長いことが必要になります。ピレスロイド系剤は殺虫効果、残効性ともに優れる薬剤があります。ネオニコチノイド剤は殺虫効果は高くありませんが、長期間被害を防止する効果があります。有機リン剤は殺虫効果は高いですが残効性はありません。同系統の薬剤でも種類によって効果に差がありますので、表を参考に薬剤を選択してください。

また、収穫直前まで5～6回の防除が必要になる場合があります。使用回数や使用日数などに注意し、計画的に薬剤を使用しましょう。

2 ハダニ類の多発に注意

カメムシ防除のためにピレスロイド剤やネオニコチノイド剤を多用すると、天敵類が少なくなり、繁殖の早いハダニ類が多発することがあります。発生状況に注意し、発生の少ないうちにダニ剤による防除を行いましょう。

表 カメムシ類に登録のある主な薬剤の使用法と残効期間

(令和6年4月23日現在・山口県病害虫防除所作成)

| 殺虫剤 コード (系統) ※1 | 農薬名 | 登録のある作物および使用法 | | | | | | 残効期間 ※3 (被害防止効果) |
|---------------------------|---------------------------|--|-------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--|--------------------------------|--|
| | | ナシ | モモ | リンゴ | ウメ | カンキツ | ビワ | |
| 4A (ネオニコ チノイド) | アクトラ 顆粒水溶剤 | 2,000倍 前日 3回以内 | 2,000倍 前日 3回以内 | 2,000倍 7日前 2回以内 | 2,000倍 7日前 2回以内 | 2,000倍 14日前 3回以内 | | 10日程度 * アドマイヤー 顆粒水溶剤は 1,000倍の場合、 残効がやや 短くなる |
| | アドマイヤー 水和剤 | 1,000倍 3日前 ※4 2回以内 | 1,000倍 3日前 ※4 2回以内 | | | | | |
| | アドマイヤー フロアブル | | 5,000倍 3日前 ※4 2回以内 | | | 2,000～ 5,000倍 14日前 ※4 3回以内 | 2,000倍 7日前 ※4 2回以内 | |
| | アドマイヤー 顆粒水和剤 * | 5,000～ 10,000倍 3日前 ※4 2回以内 | 5,000～ 10,000倍 3日前 ※4 2回以内 | 5,000倍 3日前 ※4 2回以内 | | 5,000～ 1,000倍 14日前 ※4 3回以内 | | |
| | アルバリン (スタークル) 顆粒水溶剤 | 2,000倍 前日 3回以内 | 2,000倍 前日 3回以内 | 2,000倍 前日 3回以内 | 2,000倍 前日 3回以内 | 2,000倍 前日 3回以内 | 2,000倍 前日 2回以内 | |
| | ダントツ 水溶剤 | 2,000～ 4,000倍 前日 3回以内 | 2,000～ 4,000倍 7日前 3回以内 | 2,000～ 4,000倍 前日 3回以内 | 2,000～ 4,000倍 前日 3回以内 | 2,000～ 4,000倍 前日 3回以内 | 2,000～ 4,000倍 前日 3回以内 | |
| 3A (ピレスロ イド) | テルスター 水和剤 | 1,000～ 2,000倍 前日 2回以内 | 1,000倍 14日前 2回以内 | | | 1,000～ 2,000倍 前日 3回以内 | 1,000～ 2,000倍 前日 2回以内 | 10日程度 |
| | テルスター フロアブル | 3,000～ 6,000倍 前日 2回以内 | 3,000倍 前日 2回以内 | 3,000倍 前日 1回以内 | 3,000倍 前日 2回以内 | 3,000～ 6,000倍 前日 3回以内 | 3,000倍 前日 2回以内 | |
| | マブリック 水和剤20 | 2,000倍 30日前 2回以内 | | | | 2,000～ 4,000倍 45日前 シカ21日前 2回以内 | | |
| | アグロスリン 水和剤 | 1,000～ 2,000倍 前日 3回以内 | 1,000～ 2,000倍 前日 5回以内 | | | 2,000倍 7日前 3回以内 | | |
| | アディオ ン乳剤 | 2,000倍 前日 2回以内 | 2,000倍 7日前 6回以内 | | | 2,000倍 14日前 6回以内 | | |
| | アーデ ント水和剤 | 1,000倍 7日前 3回以内 | 1,000倍 前日 3回以内 | | | | | |
| 1B (有機リ ン) | スミチオン 水和剤40 | 800～ 1,000倍 (有袋)14日前 (無袋)21日前 6回以内 | 800～ 1,000倍 3日前 6回以内 | 800～ 1,000倍 30日前 3回以内 | | | | 1～2日 |
| 2B (フェニ ルピラゾ ール) | キラップ フロアブル | | | 2,000倍 14日前 2回以内 | | | | 7～10日 |

※1 数字と記号はIRAC(殺虫剤抵抗性対策委員会)による作用機構分類コード

※2 同一成分の薬剤は使用回数を通算して数えること(散布の場合)。

※3 残効期間は他県、日本植物防疫協会およびメーカーのデータを参考に作成した。
あくまで目安であり、天候などの条件で短くなる場合がある。

※4 ただし、露地の場合は発芽期から開花期を除く